

目のフオークローア 兆・応・禁・呪のひとつの基盤

小池淳一

Eye Folklore : A Base of Omens, Knowledge, Taboos and Magic

KOIKE Jun'ichi

はじめに

- ① 一目小僧の素姓
 - ② 片目の伝承
 - ③ 左目の呪力
 - ④ 見る民俗—儀礼と行事
- おわりに—小括と今後の課題

【論文要旨】

本稿では目をめぐる民俗事象を取り上げ、感覚の民俗研究の端緒とするとともに、兆・応・禁・呪といった俗信の基盤として考察した。まず最初に、柳田國男の一目小僧論を検討し、さらにその範疇に入らない年中行事における目の力に対する伝承を指摘した。次いで片目の魚の伝承や縁起物のタルマに着目し、片方の目しかない状態を移行や変化の表現としてとらえるべきであることを確認した。さらに左の目を重視する説話的な伝承が確認できること、また片目というのは禁忌の表現でもあることを見

出した。最後に「見る」という行為から構成される民俗について、特に「国見」、「岡見」、市川團十郎における「にらみ」、「月見」などを取り上げて分析した。その結果従来は「見る」行為には鎮魂の意義があるとされてきたが、さらにその内容を詳細に検討する必要があることが判明した。今後はさらに多くの「見る」民俗を分析するとともに五官に関わる民俗を総合的に検討することを目指す。

【キーワード】 一目小僧、片目、タルマ、岡見、見る、にらむ